

平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	体育課	内線等	3404
事業コード		事務事業名	学校体育施設開放事業	
根拠法令等	蒲郡市立学校体育施設の開放に関する規則	A 法令	B 条例	C 規則
		D その他	E なし	

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	スポーツ・レクリエーション
------------------	---------------

事務事業の内容

対象(受益者)	地区のスポーツ交流及びスポーツグループ団体のために
手 段	スポーツ活動の場の提供を図ることにより
想定する成果	市民の体力向上と健康増進を図る

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
学校開放箇所数	22校	21校	21校
年間延利用回数	5,286回	5,219回	5,200回
延利用人員	112,361人	114,637人	113,000人

成果指標

成果指標名	1校当り学校開放年間平均実施回数	学校開放1回当り利用者数
成果指標の説明	年間延利用件数 ÷ 学校開放箇所数	延利用人数 ÷ 年間延利用件数

事業の進捗状況 (一般会計)

(千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	245回	245回	248回
	実績	240回	249回	
成果指標	計画	20人	20人	22人
	実績	21人	22人	
事業費	事業費	6,897	4,843	3,713
	人件費	3,218	1,557	789
	(人数)	0.4	0.2	0.1
	合計	10,115	6,400	4,502
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他	1,929	1,836	1,800
	一般財源	8,186	4,564	2,702

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	利用登録する団体が増加傾向にある。
経済効率性	3	2	3	2	管理指導員に対する謝金が3年連続で引き下げ経費削減に努力している。
事務効率性	2	2	2	2	開放の利用回数により謝金が変わるので、毎月の算出に手間がかかる。
必要性	2	2	3	2	各学校の理解を得て学校教育施設を開放していただき、市の関与なしではできない。
小計	9	8	10	8	
施策への貢献度	3	-	3	-	体育センター及び文化広場以外のスポーツ活動の場の提供として、市民の健康増進に貢献している。
合計	12	8	13	8	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	各施設の利用頻度は高く、施策に対し必要と思われる。
------	---	---	---	---	---------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
・管理指導員の報酬の削減。	1,600千円

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の利用に関し、青少年健全育成の観点から照明使用料も徴収していないが、受益者負担の原則から見直しを図り、財源の確保に努めるべきである。 ・管理指導員の報酬を引き下げたため、受け手がなく指導員の確保に困難をきたしているため、確保に向けた検討が必要である。
--

平成20年度予算に反映する項目

・照明料の免除の見直しにより、収入増を図る。

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	体育課	内線等	3404
----	-------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	スポーツ教室開催事業		
根拠法令等			A 法令	B 条例	C 規則
			D その他	E なし	

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	スポーツ・レクリエーション
------------------	---------------

事務事業の内容

対象（受益者）	ゆとりを持ってスポーツを楽しむ親子のために
手 段	夏休みを利用してスポーツ教室を開催することにより
想定する成果	親子間の交流とスポーツの技術向上を図る。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
親子水泳教室	51人	44人	60人
すもう教室	15人	17人	20人
バドミントン教室	40人	33人	45人
ソフトテニス教室	57人	53人	55人
計	163人	147人	180人

成果指標

成果指標名	スポーツ教室参加者増減率	スポーツ教室参加率
成果指標の説明	現年度参加者数/前年度参加者数×100	参加者数/定員×100

事業の進捗状況（一般会計）

(千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画			122.4%
	実績	111.6%	90.2%	
成果指標	計画			90.0%
	実績	85.8%	77.4%	
事業費	事業費	522	653	768
	人件費	1,609	778	789
	(人数)	0.2	0.1	0.1
	合計	2,131	1,431	1,557
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他	192	178	221
	一般財源	1,939	1,253	1,336

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	1	2	1	2	小学生を対象に基本のマスターに主眼をおいて開催しているが、種目により参加者が減少している。
経済効率性	1	2	2	2	種目により参加者数に偏りがあるため、指導者数の増減を図る必要がある。
事務効率性	2	2	2	2	4教室の開設にあたり、準備から教室当日の受付等に職員があたるため、他の事業に影響を及ぼしている。
必要性	2	2	2	2	営利目的のスポーツクラブより参加費が安いいため、スポーツ人口の底辺拡大に貢献している。
小計	6	8	7	8	
施策への貢献度	2	-	2	-	スポーツ技術の向上には効果があるが、種目によっては親の参加が少ないため親子間の交流にはあまり効果がない。
合計	8	8	9	8	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	スポーツ教室参加者の間の交流が図られ、友好を図るうえでは有益な事業である。
------	---	---	---	---	---------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
平成17年度までは、参加者の青少年団体等互助会保険料を市費で負担していたが、受益者負担の考え方に基づき、教室参加者負担とした。	14千円

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> ・教室により参加申込者が減少しているため、開設種目の再考が必要である。 ・予算編成時における定員数の見直し。 ・各協会において、開催準備から運営まで実施できないか検討する必要がある。

平成20年度予算に反映する項目

<ul style="list-style-type: none"> ・開設種目の見直し。
--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	体育課	内線等	3404
----	-------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	ITUトライアスロン & オレンジトライアスロン				
根拠法令等			A 法令	B 条例	C 規則	D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	スポーツ・レクリエーション
------------------	---------------

事務事業の内容

対象(受益者)	感動溢れるスポーツイベントの観戦を願望する市民のために
手段	一流選手が参加するトライアスロン競技の開催によって
想定する成果	トライアスロン競技人口の増加と国際交流が図れる。

事業の概要

項目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
競技参加者数	735人	389人	421人
ボランティア参加者数	555人	267人	213人
競技内容	2005ITU世界大会・第17回ルンジ	2006ITUコンチネンタル・第18回ルンジ	2007ITUコンチネンタル・第19回ルンジ

成果指標

成果指標名	トライアスロン競技参加率	ボランティア参加率
成果指標の説明	現年度参加者数/前年度参加者数 × 100	ボランティア参加者数/蒲郡市人口 × 100

事業の進捗状況 (~ モーターボート競走特別会計 ~ 一般会計) (千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画			
	実績	180.1%	52.9%	108.2%
成果指標	計画			
	実績	0.68%	0.33%	0.26%
事業費	事業費	35,996	5,700	5,700
	人件費	8,044	5,449	3,156
	(人数)	1.0	0.7	0.4
	合計	44,040	11,149	8,856
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	44,040	11,149	8,856

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	-	2	-	トライアスロン競技人口は増加しているが、市民アスリートが育っていない。
経済効率性	1	-	2	-	世界大会よりランクが下の大会となり補助金を削減したが、国際大会には程遠い選手層となっている。
事務効率性	1	-	1	-	実行委員会形式で組織運営をしているが、事務的には市職員の事業量が大きくなっている。
必要性	2	-	2	-	他の開催地も市が主体となって関わっており、市の協力がなければ実施が難しい事業である。
小計	6	0	7	0	
施策への貢献度	1	-	2	-	アスリートにとっては有益な事業であるが、一般市民にとっては重要度は低いと思われる。
合計	7	0	9	0	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	C	-	B	-	トライアスロン協会が実施している教室等の参加者は増え、競技人口の増加になっており、市内外の参加者には好評を得ているが、施策に対する効果には疑問が残る。
------	---	---	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
・ITUトライアスロン平成17年度大会は世界大会として開催したが、18年度及び19年度はコンチネンタルカップとして、開催したため補助金が減額となった。また、アルバイト等の雇用経費も不要となった。	25,160千円

今後改善すべき点

・市民にとっては、スポーツ・レクリエーションとしてよりもイベント的な性格のものであり、開催場所の提供から補助、事務負担とどの範囲まで市が関わっていくか再検討する必要がある。共催競技ではなく後援競技として、トライアスロン協会の組織充実を促し、職員の負担を減らしていくべきである。
--

平成20年度予算に反映する項目

・ITUコンチネンタルカップのネーミングの割に外国人選手の参加が少なく、学生選手権等を兼ねたオレンジトライアスロンの開催だけで良いと思う。

今後の方向性

拡大、充実 ・ **見直し、縮小** ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	体育課	内線等	3404
事業コード		事務事業名	スポーツ大会等開設事業	
根拠法令等			A 法令 B 条例 C 規則 D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	スポーツ・レクリエーション
------------------	---------------

事務事業の内容

対象(受益者)	高齢者、家庭婦人、青少年等市民のために
手 段	高齢者スポーツ大会、ラジオ体操講習会、スポーツ少年団大会等を開催することにより
想定する成果	市民交流と健康の維持・増進を図る。

事業の概要

項 目	平成17年度実績		平成18年度実績		平成19年度計画	
ラジオ体操参加者	3回	898人	3回	890人	3回	980人
高齢者スポーツ大会	2回	532人	2回	590人	2回	560人
ママさんバレー参加者	4回	335人	4回	310人	4回	300人
スポーツ少年団参加者	2回	4,249人	2回	4,101人	2回	4,100人
合 計		6,014人		5,891人		5,940人

成果指標

成果指標名	大会参加者増減率	大会参加率(ママバレ・スポ少)
成果指標の説明	現年度参加者数/前年度参加者数×100	延べ参加者数/登録者数×100

事業の進捗状況 (一般会計) (千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画			100.8%
	実績	102.2%	98.0%	
成果指標	計画			
	実績	179.3%	185.0%	
事業費	事業費	883	850	962
	人件費	4,022	3,114	1,578
	(人数)	0.5	0.4	0.2
	合計	4,905	3,964	2,540
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	4,905	3,964	2,540

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	3	-	3	-	各種大会の参加者は、安定的に推移している。
経済効率性	2	-	2	-	人件費を除いた事業費の大部分は大会等の参加賞となっている。
事務効率性	2	-	2	-	役員会・理事会等を開催し、事務局と事業計画を協議しながら事業を推進している。
必要性	3	-	3	-	市民の交流を図るうえで重要である。
小計	10	-	10	0	
施策への貢献度	2	-	3	-	各地区、各団体間の交流が図られている。
合計	12	0	13	0	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	A	-	A	-	高齢者、家庭婦人、スポーツ少年団等の各地区・チーム間の大会を定期的を開催することにより交流が図られ、健康増進にも有効である。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
各大会の実行役員等の昼食代を引き下げたり、支給回数を削減した。	

今後改善すべき点

大会によっては、役員が高齢化してきており組織の活性化のためにも新しい役員の育成が必要。

平成20年度予算に反映する項目

現状以上の削減は困難。

今後の方向性

拡大、**充実**・見直し、縮小・現状維持・検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】